

# ぶどうの「べと病」に注意しましょう

平成 22 年 8 月 4 日(水)の中部・南河内巡回調査で、柏原市、太子町の露地ぶどう(デラウエア)でべと病の多発生を確認しました。(下表参照)

べと病は、気温 20～25 度、多雨で発生しやすく、例年梅雨頃から発生が広がります。梅雨が明け、高温が続くと発生が減少しますが、秋期になり気温が下がると再び発生します。

べと病が蔓延し、葉が早期落葉すると樹勢が著しく低下し、翌年以降の結実にも影響します。多くのぶどう園で収穫期に入っていますが、収穫終了後も定期的にぶどう園を見回り、べと病の早期発見・防除に努めてください。

また、夏の高温乾燥も樹勢の低下につながります。収穫終了後も、乾燥が続く場合、定期的にかん水を行ってください。

調査地点	発病葉率
柏原市青谷	28.0%
太子町太子	38.0%
平年値	11.7%

## 対策

病害が発生しやすい時期にボルドー液(4-4 式)を予防的に散布する。  
発生が多い場合は、収穫終了後にリドミルMZ水和剤を散布する。

◎防除薬剤については、

●Web 版大阪府病虫害防除指針(<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>)

●農林水産消費安全技術センター 農薬登録情報検索システム

(<http://www.acis.famic.go.jp/searchF/vtllm000.html>)

にて確認してください。